

2018年度 中国現代文学研究者懇話会

「中国現代文学翻訳の歴史と現状」

【開催の趣旨】

周知のように、中国現代文学は「新文学」誕生のころから、日本でも逐次的に翻訳紹介されてきました。それは日中戦争の間も途絶えることはありませんでした。さらに「新中国」成立後の中国当代文学も、「人民文学」から文革を経て「新时期文学」に至るまで、時に政治状況の影響を受け、イデオロギー色を強めることもありながら、様々な先人たちの努力によって、主要な中国文学作品が日本語で読めるという状況を一貫して作り出してきました。「タコ壺」的な文学研究よりも、一般向けの翻訳紹介のほうがずっと価値があることは、言を俟たないでしょう。それにしては従来、翻訳の仕事は軽視されてきたのではないのでしょうか。しかし、一方では質の悪い翻訳、無責任で恣意的な紹介が存在してきたことも事実です。望ましい翻訳紹介のあり方とはどのようなものか、その態勢を整えるためには何をすればよいのか、こうした問題意識から、今年度の懇話会のテーマを「中国現代文学翻訳の歴史と現状」として開催する運びとなりました。多数の方々のご参加を期待しています。

- 【日時・場所】 11月3日(土) ※文化の日 13:30開場
14:00~17:00 懇話会「中国現代文学翻訳の歴史と現状」
(東京大学駒場キャンパス 18号館 コラボレーションルーム1)
17:30~19:30 懇親会
(同駒場キャンパス 18号館 オープンスペース)

【懇話会プログラム】

総合司会 加藤三由紀 (和光大学)

パート1 基調報告「戦後日本における中国現代文学の翻訳紹介」

報告者 飯塚容 (中央大学)

戦後から現在に至るまでの日本における中国現代文学、当代文学の翻訳の歴史を振り返り、パート2の議論につなげます。

パート2 パネルディスカッション「中国現代文学翻訳の現状と課題」

パネラー 飯塚容 (中央大学) 栗山千香子 (中央大学)

関根謙 (慶応義塾大学) 谷川毅 (名古屋経済大学)

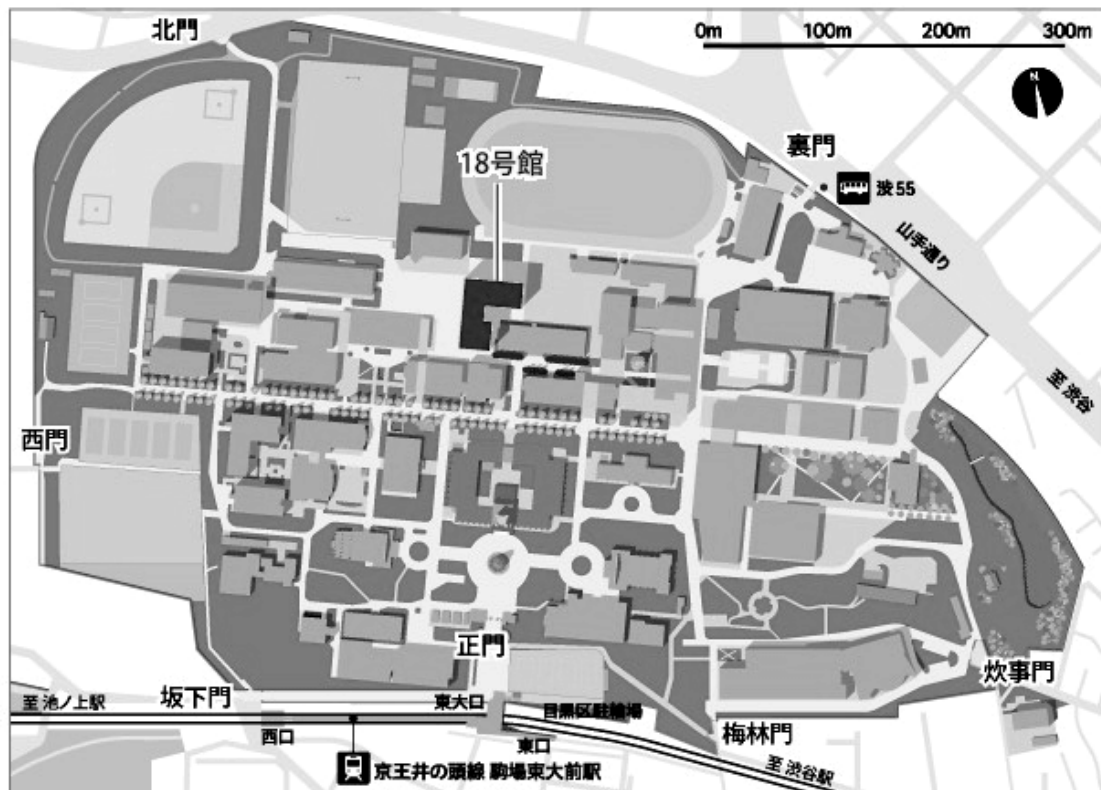
自身が翻訳者であると同時に、翻訳を掲載する雑誌の編集責任者も経験している4名が、現状の問題点や今後への展望を語ります。

- 【参加費】 懇話会：1000 円
懇親会：4000 円（学生・院生：3000 円）

【会場アクセス】

駒場キャンパスまで： 京王井の頭線・駒場東大前駅下車、徒歩 1 分。
(渋谷から駒場東大駅までは、各駅停車で 2 分)

※ 18 号館は、正門を入れて正面の建物（1 号館）裏に見える、高い建物です。



- ※ 同封の返信用はがきにて、ご参加の有無をお知らせ下さいますようお願いいたします。
※ 大学院生や近接領域の研究者など、お知り合いの方にもご紹介下さい。
※ 当日飛び入りでのご参加も可能です。

中国現代文学研究者懇話会世話人会

北岡正子（代表） 青野繁治 伊藤徳也 岩佐昌暲 上原かおり
宇野木洋 江上幸子 黄英哲 小谷一郎 斎藤敏康 佐治俊彦
白井重範 谷川毅 濱田麻矢 松浦恆雄 松岡純子 和田知久

お問い合わせ先：白井重範